

特集

昨年の総会で、1年かけて中期計画を作っていくというお話しをし、以来数回に渡って理事、職員、親、ボランティアが集まり、勉強会を開いてきました。今回はその最終回、特集とすればれっとの中期計画を取り上げます。

中期計画策定に向けての動きを3回シリーズでお伝えしてきましたが、今回はそのしめくくりとして、今年5月に開かれた認定NPO法人ばれっと社員総会で承認された中期計画の理念、明文化されたそのプロセスとばれっとが描くこれからのビジョンについてご報告いたします。

1. 中期計画理念の文章化

2014年3月8日、地域交流センター恵比寿で開かれたばれっと理事・ボランティア・ばれっと親の会・スタッフ(支援者)による勉強会で、今まで話し合われてきたばれっとの課題解決に向けたまとめが、4つのグループから出されました。

- A:「ばれっとの拠点が、関係が希薄な社会に対して、人と人がつながるきっかけを作る拠点となる」
- B:「多様な人が混ざり合い、発信できる拠点づくり」
- C:「誰もが人生の豊かさを生み出せる拠点づくり」
- D:「働きかけ、つながることで、新しい考えを知り、新しい生き方を発信できる拠点づくり」

それぞれのグループから出された思いから、主語はだれか・目的は何か・対象はだれかなど、共通項目を抽出しながら一つの文章を作り上げ、立場は違えど同じ支援

する側としてお互いの考えを共有しながら作業を進めていきました。

ここに、中期計画の理念をお伝えします。

人間関係が希薄になりつつある地域の中で、誰もがつながり、新しい生き方を生み出せる拠点づくり

- *誰もが:障がいのあるなしに関わらず、高齢者や外国人も含めた地域の人々。
- *新しい生き方:多様な人とのつながりから自分らしい生き方と選択肢の創造。
- *拠点づくり:地域社会とつながれる場・雇用拡大や職域開発・多様化するニーズに対応できる暮らしの場づくり

2. 「拠点づくり」の根拠

積み重ねられてきた勉強会から、30年の歴史があるばれっとが実際に地域に根付いているのかという疑問の声が支援者の中から上がりました。地域との関係づくりを意識した活動を展開してきたばれっとですが、恵比寿の地域住民には広く浸透していないという一言から、改めて地域に根差すということはどういうことなのかを考えさせられました。

支援者との話し合いを重ねていく中で、ばれっとには解決すべき現存する4つの大きな課題も浮き彫りとなってきました。

- ・【ぱれっと全体】家賃負担の軽減
- ・【働く】作業スペースと雇用の拡大
- ・【暮らす】多様化する住まい方の提供
- ・【余暇】ふらっと寄れる自由な空間

これらの課題を解決するためには、広い場所へ移転するか、ぱれっと独自の新たな拠点を作る方策以外はないのではないかとスタッフ間で話し合ってきました。賃借料が高いこの恵比寿地域で今より安い家賃で広い物件への移転は大変厳しいものがあります。ですが、あえて新たなぱれっとの夢を描くために、新しい拠点づくりに向けた大きな方向転換をし、勉強会を通して支援者全員の認識の下、中期計画の理念を立てました。

移転を「新たな拠点づくり」と位置付け、その理念にどのようなビジョンを投影するかを支援者全員で文章化し共有作業を行ないました。その結果、支援者の相互理解と当事者意識が強まること、拠点づくりの意義目的を自分自身で語れるようになり、その役割を認識し実行に移せるぱれっとの一員になれるよう確認し合いました。

3. 新たな拠点づくりに向けての可能性

「地域に根差す」ということは、「地域に拠点を構える」ことだと勉強会で確認作業を行なってきました。地域に開かれたぱれっとにすべく、新たな拠点づくり構想は、候補地が具体的にない状況下においても、行政に訴えかけながらすすめていくという覚悟を決め、中期計画の理念として総会で承認を受けました。

しかし、立地や容積については具体的に以下の条件が必要となります。

- ① 渋谷区が所有する土地で無償提供を受けられる場所

- ② 拠点が恵比寿地域に限られること
- ③ 4つの課題解決に十分な建物容積

ぱれっと独自で恵比寿に土地を購入することは不可能です。長年渋谷区には、公共施設の利用を要望してきましたが、希望に叶う場所には恵まれませんでした。おかし屋ぱれっとの作業や販売の立地条件も重なり、集客の問題等クリアする条件のハードルは高くなりました。

4. 5か年計画(実現に向けて)

今の場所から移転し、ぱれっと独自で建物を建てる大規模な計画を立てました。具体的な場所の候補地はまだ決まっていません。しかし、全く可能性のないところでこの新たな拠点づくりの計画は立てられません。確実性はありませんが、ある程度の可能性があるところで実現に向けての舵取りをしています。

今年度中には拠点づくりに向けた実行委員体制を組み計画を立てていきます。場所が明確になり次第建設資金の試算に入ります。おかし屋ぱれっとやたまり場ぱれっとといった既存の事業継続、多様な住まい方に対応した新たなグループホームの開設、地域のニーズに応じた新規事業への着手等、夢のあるぱれっとの拠点づくりの実現に向けた動きとしてはこれからですが、行政と折衝しながら早急に具体化できるよう話し合いを進めていきます。新たな拠点が完成する見通しとして、長くても5年以内には達成できるよう中期計画を立てていく考えでいます。

5. 資金調達

建設費用には少なくとも億単位の資金が必要になってくると考えています。新設

グループホームには東京都からの助成金が目下情報としてありますが、この制度が継続されるか不透明です。財団などからの助成も視野に入れながら資金調達を考えなくてはなりません。当然金融機関からの借入れも必要となります。これについては今の家賃の自己負担分を返済に充てるという考えもあります。

しかし、こうした資金調達に向け根本に据えて置かなければならないのが、この新たな拠点づくりが社会的に如何に魅力的なものであるか、意味があることであるかが問われるということです。「勉強会を通して、ぱれっとが地域に根差すということがどういった意味を持つのか考える機会となった」と述べました。地域に根を張るということは、地域の人々から必要とされるぱれっとであること、そしてぱれっとが地域に貢献していくという姿勢に変化させていくと捉えています。

ぱれっとの新たな拠点づくりがステークホルダーに広く共感してもらおう仕組みを考えることが資金調達に向けての課題であると考えています。

この中期計画は、今年5月の総会場で承認を受けました。これまでのぱれっとの勉強会に参加された支援者の中から、理事とたまり場ボランティアからそれぞれの熱い想いを語っていただきました。

(認定 NPO 法人ぱれっと理事長 相馬宏昭)

これまでの勉強会に参加をしてきて、障がいのある人とない人が住まう「ぱれっとの家 いこっと」をつくる過程を思い出しました。今回の勉強会のテーマとなった

「理念の問題」や「資金調達の課題」は当時から大きく取り上げられていました。新しい事業の創出、理念の策定、資金調達をはじめとした課題の抽出と解決、これらは誰かがやってくれるものではなく、関わる全員で力を合わせて解決してくものだと考えます。

新しい拠点や事業の可能性、出てくる課題、「ぱれっとつうしん」をお読みのみなさまもワクワクしませんか。ぱれっとに関わるみなさまで知恵を絞り合い、汗をかき、新しい時代を切り開いていきましょう。

(認定 NPO 法人ぱれっと理事 田口雄一)

「ぱれっと」、自分にとって大変居心地がいい場所です。その感覚はずっと変わらず残ってほしいと思います。とはいえ、社会および内部の要請により組織として今後とも挑戦することは必要と感じます。せつかくのその挑戦の機会と捉え、諸々の事業面はもちろん、組織・チームとしても幅を広げ、結束を深め、今以上に自律的に“面白く・変化・成長”するチームとすることが出来れば、ますますおもしろい団体になることと思います。個々には地域事業であれば地域の人々を構想段階から巻き込み、事業の責任ある構成者になって貰うこと。ぱれっと内部の横の連携をより深めること、そのための取り組みを積極的に行なうことなどが大切と考えます。10年後、そこにはどんな人々が集っているのでしょうか？ 5年後、変わったもの、変わらなかったもの。1年後、何を残し、何を変え、何を生み出す。明日今日そして今。大切にしたいこと、笑いと優しさ、温かさ、そして踏み出す勇氣。

(たまり場ぱれっとボランティア金子正和)